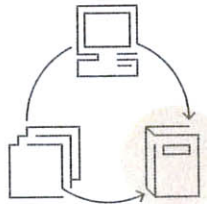


□ 生命誌の発信媒体について

生命誌ジャーナル (web)

- 2005 夏 (45号) ■ 2005 秋 (46号)
- 2005 冬 (47号) ■ 2006 春 (48号)

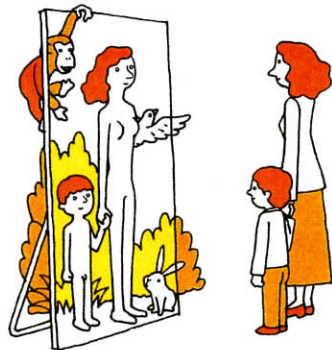


BRHカード

- 45号 ■ 46号
- 47号 ■ 48号

生命誌年刊号

- ■ ■ ■ 2005
- 年度末に、BRHカードと生命誌ジャーナルをまとめ生命誌年刊号として発行



ヒト — 私

はじめに

「愛づる」「語る」と続けてきたテーマ、今年は「観る」です。どのテーマも、底に流れるのは、“じっくり時間をかける”です。生きているとはどういうことかを知りたいなら、生きている状態をじっくり観ることが基本だと思います。これは私たちだけの思い込みではないようです。本書でも、皆さんから「見るが始まりであり終わりである。」「瞬間を見ることから時間が見えてくる。」「見続けていると、ある時ふと違和感を感じる時があり、そこに発見がある。」「情報でわかるなどと思っていたら大間違い。実物を見なければ。」次々となるほどと思う言葉が出てきます。情報を大量に集めれば何かがわかっていくというのではなく、一つ一つをていねいに観ることからしか本質は見えてこない、と断言してもよいでしょう。もちろんその上で、情報の活用は大事ですけれど。

カードとwebと本という組み合わせでの情報発信も4年目です。カードで見る、webで読む、一まとまりの本から何かを引き出す、という形で使っていただけとありがたいのですが、それにはまだ工夫が必要だと実感しています。

最近、大学や研究所で、サイエンス・コミュニケーション、アウトリーチなどの言葉が聞かれます。法人化の中で、資金獲得のためにはアカウンタビリティが必要というわけです。なぜかすべてがカナ言葉で言われているのは、内発的でないからでしょう。科学を日常の中で捉え、是非これを伝えたいという気持ちから表現を工夫するという活動を積み重ねていけば、この問題への答は出ると思います。

本書を通して研究館を感じてもらっていただければ幸いです。さらに、webでの訪問や、高機への来訪をお待ちしています。

JT生命誌研究館館長 中村桂子

TALK_ 観るを語る

- 010 ■ 45 TALK
複製と共有
観察による手描きと再認を求める写真
港 千尋×中村桂子
- 024 ■ 46 TALK
動きを観る
ミクロの解剖学から体全体へ
廣川信隆×中村桂子
- 036 ■ 47 TALK
実物から探る
自然と歴史を観る喜び
藤森照信×中村桂子
- 050 ■ 48 TALK
驚っぱから考える
違和感としてわかる豊かな形作り
塚谷裕一×中村桂子

RESEARCH_ 観るで見たもの

- 070 ■ 01 RESEARCH
細胞記憶を支えるクロマチン
広瀬 進
- 078 ■ 02 RESEARCH
形づくりを支える分子の形の変化
小田広樹
- 084 ■ 03 RESEARCH
光合成タンパク質の形から知る植物の賢さ
栗栖源嗣
- 090 ■ 04 RESEARCH
オートファジーの現場をとらえる
水島 昇
- 095 ■ 05 RESEARCH
柔軟な脳の働きを支えるアストロサイト
森田光洋
- 100 ■ 06 RESEARCH
新天地を目指して
岡部正隆
- 106 ■ 07 RESEARCH
ヤマネコが語る西表島の生態系
伊澤雅子
- 112 ■ 08 RESEARCH
自然界に捕食者が存在することの意味
西田隆義

ART in BIOHISTORY_ 表現を観る

- 122 ■ 01 ART in BIOHISTORY
絵巻—時間を見る
- 124 ■ 02 ART in BIOHISTORY
異時同図—動きを見る
- 126 ■ 03 ART in BIOHISTORY
マンダラ—全体をみる
- 128 ■ 04 ART in BIOHISTORY
擬人化—一人の目でみる

SCIENTIST LIBRARY_ 人を通して見えてくる

- 132 ■ 45 SCIENTIST LIBRARY
21世紀のフィールド科学を
赤澤 威
- 146 ■ 46 SCIENTIST LIBRARY
DNAの増え方から見た生きものの姿
吉川 寛
- 160 ■ 47 SCIENTIST LIBRARY
タンパク質の形と進化をつなぐ生物物理学
郷 通子
- 174 ■ 48 SCIENTIST LIBRARY
神経回路は試行錯誤で
藤澤 肇

What's BRH

- 188 館内 Information
- 190 From Lab
- 192 From SICP
- 194 研究館グッズ